

Mémoires 2020

天皇賞(秋)

第162回天皇賞(秋)(GI)優勝馬アーモンドアイ



人馬それぞれの大記録



▲好位で流れに乗ったアーモンドアイ。ルメール騎手は、スパートのタイミングをうかがう。



▲春秋の天皇賞で5連勝を飾ったルメール騎手と、国内外合わせて7目のビッグタイトルを制したアーモンドアイ。

幾多の名馬たちの記録をついに越えた。

GI馬7頭と豪華メンバーが揃う中、絶対的な中心は前年の覇者アーモンドアイ。前走の安田記念はスタートで後手を踏んだことも響き2着に敗れたが、歴代トップに並ぶ国内外の芝GI7勝を誇る女王への信頼は揺らぐことはなく、単勝1.4倍と断然人気に推された。

ゲートが開くと、アーモンドアイは五分のスタートを切る。前年の2着馬ダノンプレミアムが逃げて、毎日王冠2着のダイワキャグニーが少し離れた2番手。宝塚記念、京都大賞典と連続2着中のキセキが続き、アーモンドアイは4番手をスムーズに確保する。直後には固まるようにダノンキングリー、ウインブライト、ブラストワンピースなど。天皇賞の春秋制覇を狙うフィエールマン、宝塚記念を圧勝した2番人気のクロノジェネシスは後方から3、4番手を並んでじっくり追走する形となった。

直線、アーモンドアイが抜群の手応えで持ったまま前に迫る。満を持して坂上で仕掛け、残り250mで鞭が一発入ると、一気に加速。残り150mでダノンプレミアムを交わし、先頭に立つ。後方からようやくフィエールマンとクロノジェネシスが猛追するが、時すでに遅し。半馬身差ながら、貫禄の横綱相撲といえる強さで勝利した。

天皇賞(秋)連覇は2002、2003年のシンボリクリスエスに次ぐ史上2頭目。クリストフ・ルメール騎手は1949～1951年の保田隆芳以来2人目の3連覇、春とあわせれば天皇賞5連覇という前人未到の記録達成となった。

ウイニングランを終えたルメール騎手は、馬上からスタンドへ向けて両手で8本の指を立てた。アーモンドアイはこれで牝馬三冠、ジャパンカップ、ドバイターフ、ヴィクトリアマイル、2度の天皇賞(秋)と国内外の芝GIを8勝。シンボリルドルフやディーブインパクトといった名馬たちを越える歴代新記録を樹立した。勝利騎手インタビューで涙を浮かべながら「すごくプレッシャーがかかったレースでした。今日は、日本の競馬界にとって特別な日になるでしょう」と話したルメール騎手。まさにその言葉通り、この日、日本競馬の歴史は塗り替えられたのだった。

第162回天皇賞(秋)(GI)

11/1 東京競馬場 2000m(芝・左) 曇・良 12頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/差	人気	通過順位
1	アーモンドアイ	牝	5	56	C.ルメール	国枝 栄	1:57.8	①	③③④
2	フィエールマン	牡	5	58	福永 祐一	手塚 貴久	1/2	⑤	⑩⑨⑩
3	クロノジェネシス	牝	4	56	北村 友一	斉藤 崇史	クビ	②	⑧⑨⑨
4	ダノンプレミアム	牡	5	58	川田 将雅	中内田充正	2	⑥	①①①
5	キセキ	牡	6	58	武 豊	角居 勝彦	2 1/2	④	③③②
6	ダイワキャグニー	騾	6	58	内田 博幸	菊沢 隆徳	2 1/2	⑩	②②②
7	ジナンボー	牡	5	58	M.デム一口	堀 宣行	クビ	⑨	⑦⑥④
8	カデナ	牡	6	58	田辺 裕信	中竹 和也	1/2	⑪	⑫⑪⑪
9	スカーレットカラー	牝	5	56	岩田 康誠	高橋 亮	アタマ	⑧	⑪⑪⑫
10	ウインブライト	牡	6	58	松岡 正海	畠山 吉宏	1 1/4	⑫	⑤⑥⑥
11	ブラストワンピース	牡	5	58	池添 謙一	大竹 正博	3/4	⑦	⑧⑤⑥
12	ダノンキングリー	牡	4	58	戸崎 圭太	萩原 清	7	③	⑤⑥⑥

単勝 ①140円 複勝 ①110円 ②260円 ③140円 枠連(5-7)780円
馬連 ⑥-⑨970円 馬単 ⑨-⑥1,180円 ワイド ⑥-⑨420円 ⑦-⑨180円 ⑥-⑦670円
3連複 ⑥-⑦-⑨960円 3連単 ⑨-⑥-⑦4,130円

ハロンプタイム 12.7-11.7-12.1-12.1-11.9-12.0-11.7-10.9-11.1-11.6
通過タイム 600m ③36.5-800m ④48.6-1000m ①1:00.5-1200m ①1:12.5-1400m ①1:24.2-1600m ①1:35.1-1800m ①1:46.2

優勝馬 アーモンドアイ

2015.3.10生 父ロードカナロア 母フサイチパンドラ 母の父サンデーサイレンス
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)シルクレーシング